

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
 会長 大久保雅人
 事務局 札幌市立しらかば台小学校
 事務局長 野村 邦重
 TEL (011)852-4090
<http://www.hokkaido-sla.jp/>
 印刷所 ㈱北海プリント
 TEL (011)811-2396

「第39回北海道学校図書館研究大会十勝大会を終えて」

第39回北海道学校図書館研究大会十勝大会が北海道教育委員会をはじめ、多くの関係機関、とりわけ会場や公開授業等で音更町教育委員会の多大なご支援をいただき、こうして盛会裏に終えることができたことに、心より感謝申し上げます。

運営の母体である十勝学校図書館協会は、会員わずか20名弱の小集団。それが声を掛け合うことで、大会運営委員を100有余名にお願いするに至り、当日300名を超える皆様の大会参加をいただきました。本当にたくさんの方に支えられたと強く受け止めています。あさのあつこ先生の記念講演には音更町図書館の熱心な働きかけによって、さらに100名を超える一般参加があり、これも嬉しいニュース。あさの先生、写真絵本作家の小寺卓矢さんのサイン会も大盛況の中、終えることができました。

どれだけこの大会で十勝らしさを出せたかわかりませんが、少し振り返ってみると……。

まずは、中学生の大会参加。記念講演のあさの先生の対談者として、また、セッション1の図書委員会活動の説明者として素敵な中学生にたくさん参加いただき、生徒の視点で、中学生の活動の実際を紹介できたことは、特筆に値すると考えています。

また、公開授業では、特別支援学級の授業をはじめとする生き生きと活動する児童生徒の姿を見ていただくとともに、リテラチャー・サークルやホワイトボード・ミーティング、オープクエスチョンなど、新たな手法等も紹介することができました。各分科会の提言も大変充実した内容であり、全道各地からの素晴らしい実践がこの大会で交流できたことを嬉しく思います。

全体会前のアトラクションでは、「彩の会」の皆さ



んに登場いただきましたが、映像と音楽（琴と尺八）を伴った読み聞かせは、強く心に響くものがありました。

さらに、セッションでは、前述の中学校図書委員会の「頑張れ図書委員会!」や芽室町在住の写真絵本作家、小寺卓矢さんによる「何をどう伝えるのか」、我が子の難病をきっかけに『義男の空』を刊行したエアードライブ社長、田中宏明さんの「北海道からの発信」など、多くの価値ある取り組みが発表され、刺激を受けたところです。

あさのあつこ先生の記念講演については、期待に十分応えていただいた内容であり、あつという間の90分間となり、満足感でいっぱいです。

運営面では、限られた人数から皆様に多々ご迷惑をおかけしたことと存じますが、大久保会長をはじめとする北海道学校図書館協会の役員の皆様、そして全道の学校図書館関係者の皆様のおかげで、こうして無事大会を終了できましたことに、深く感謝申し上げる次第です。本当にありがとうございました。

(報告 十勝大会運営委員長 高橋 康伸)

第39回 北海道学校図書館研究大会 十勝大会

大会初参加に寄せて

美唄市立美唄中央小学校 佐々木 久美子

長年の教職生活の中、校務分掌は「図書係」が多かったものの本研究大会に参加できず、今回ようやくその念願が果たせました。

音更小の公開授業では、6年生の読書座談会に参加。各班毎に扱う本の違いはあっても役割分担が明確になって本の世界に入っていきます。勤務校が美唄市なので後藤竜二さんの「12歳たちの伝説」に興味がいき、その班の思い出し係が本の中で苦勞する担任を自分の担任に重ねての発表に思わず笑ってしまいました。

その読書指導法が「リテラチャー・サークル」である事を分科会で知らされました。授業反省後の提言では、読書環境づくりやアニメーションの実践など、成功例ではなく日々子ども達と向かいながら努力されている様子が伝わってきました。参加者からは、読書感想文の悩み、読書指導の教師間の温度差、高学年に読ませたい選書方法、朝読や読書ボランティア等話題も多く、日頃の読書指導が交流できました。

2日目のセッション「頑張れ図書委員会！」では、芽室西中図書委員4名の登場で、指導者とのやりとりがほほえましく、委員会の人気の高さが伺えました。

購入本の決定経過を「図書館だより」で詳細に伝えられ、本への親しみがよく理解できました。

記念講演では、あさのあつこさんと現場教師と生徒の対談も楽しく聞くことができました。事前に「バッテリー」を読んでいなかったのが悔やまれます。

2日間、空知からの参加は数名と少なく残念でしたが、隔年実施の全道大会も悪くはないと思いました。

図書の仕事はマイノリティーであると言う助言者の言葉もありましたが、本年度から小学校の指導要領が変わり、国語の教科書にも多くの本が紹介され読書指導の必要性が求められています。本大会に参加できた事を一つの発信源と考え、読書指導や読書の楽しさを学校の全教育活動に反映できるよう、努力したいと思っています。あせらずに、ゆっくりと……。

十勝のおいしい空気と食材も味わいながら本大会に参加できた事に、また、大会関係者の事前準備や当日の進行の方々に感謝いたします。



十勝大会に感謝

小樽市立銭函中学校 教諭 高橋 恒雄

司書教諭の資格をとって、今年で10年目になる。資格があれば、好きな図書の仕事に携われる。そう思ってとったものの、現場はそう甘くはなかった。やらせて欲しいという気持ちは伝わっているらしく、どの職場に行っても、図書委員会には関わらせてもらえる。でも、校務分掌は、生徒会兼務だったり、生徒指導兼務だったり…、となかなか学校図書館の運営に専念する事はできない。そんな中、隔年で開催される全道の図書館研究大会に行く度に「勇氣」と「ヤル氣」をもらう。今年もそうだった。公開授業、分科会、セッションとそれぞれの学校の図書館に魂を吹き込んでいる先生達の実践をまぶしく思いながら聴く。でも、ほとんどの先生達が専任の学校司書や発令を受けた司書教諭としてではなかったり、忙しい部活も抱えていたり、苛酷な状況の中での実践だったりする。今回の大会でも、いくつもの素敵な言葉に出会った。



『頑張れ図書委員会』のセッションで芽室西中学校の今本先生が言った言葉もその1つだ。「忙しいんですよ。私には出来ないんです。だから生徒達にやってもらってます。」30年以上、図書委員会と野球部の指導に当たっているという氏の言葉には、同席していた図書委員会の生徒達に対する信頼感があふれていた。生徒達の顔にも誇らしげな表情。

忙しさを言い訳にしちゃいけない。改めて思った。「中学校の先生に文章を褒められてその気になった。」というあさのあつこさんの言葉をまずはクラスの子達に伝えよう。しばらく作っていなかった『学級文庫』を整えよう。市内の学校の図書委員会の交流をしよう…。やりたい事が沢山浮かんで来た。大会を終えて2週間たった。決心の2つは、実行に移した。次は何をしよう？と考えながら、昼休みにぎやかな学校図書館でこの文章を打っている。

エネルギーと沢山のアイデアをくれた十勝大会に感謝。

子どもと本への思いは一緒

第34回 北海道子どもの本のつどい「旭川大会」を終えて

北海道子どもの本連絡会 前運営委員長 今本 明

●—はじめに

今夏、7月30日、31日の2日間、旭川で開かれた北海道子どもの本のつどいも無事終了することができた。このつどいは、北海道に点在する子どもと本に関わる人たちを、“子どもの本”というキーワードでつないで1年に1度開かれる。主人公は、本好きのお母さんであったり、教師や図書館司書、児童文学の書き手であったりする。言わば、“民による、民のための集い”である。北海道学校図書館協会や、会員の先生方にも、過去何度も協力を頼み、力を借りた。

●—北海道子どもの本のつどいの歴史

始まりは、児童文学作家の後藤竜二さん等の呼びかけで、子どもの本に関心を持つ教師やお母さん、そして子どもの本の書き手たちが、この広い北海道で年に一度くらいは集まろうや、と考えた行事だった。変わらぬスローガンは、「全ての子らに本の楽しさを」。今年34回目となったつどいにも脈々と受け継がれる我々の最も大切な思いである。札幌をふりだしに、後に地方都市や町にも移って、開催地は年毎に変わる。全ての子に本の楽しさを願う時、学校図書館の存在抜きにしては、それは考えられない。つどいもまた、学校図書館という視点をはずしたことはない。

●—子どもの本のつどい「旭川大会」から

今年のつどいの記念講師は、詩人のアーサー・ビナードさん。『ことばメガネをかけかえると』という演題で、日本語メガネにしばられる日本人に、メガネのかけかえの重要性を説いた。アメリカ人による、「反アメリカ」、「反原発」の思いは、参加者の心を強く打った。第2分科会の「学校図書館」では、“人から人へ、読む楽しさ、知る喜びを伝える学校図書館”というテーマで、4本の実践発表があった。旭川愛宕東小（佐藤聖士先生）、旭川東明中（成田麻友子先生）、芽室西中学校（筆者）、旭川愛宕中学校（加藤直子先生）の、4つの学校での取り組みは、どれも生き生きとした子どもたちの活動があり、独自の学校図書館としての工夫があった。参加者も多く、勤労者福祉会館の一室に入り切れないほどの人であふれた。パワーポイントによる発表や資料、実際に子どもが作ったポップなど貴重な成果を目に出来る分科会となった。

●—終わりに

学校図書館を担当する者も、子どもに本をと願う者も、その思いは共有できるものだと思う。民間の発想で運営されるつどいと、学校図書館協会の活動が、上手に溶け合って、共に高められていくことを強く願っている。

網走支部

22年度学校図書館協会網走市支部設立の構想が持ち上がり、今年度より正式に組織を立ち上げて活動を始めました。

設立の目的は学校図書館の活性化、ひいては人的基盤整備の実現です。そのために、市内小中学校全ての図書館担当者を対象に研修会・講習会を行って研修を深め、合わせて学校間の交流を図っています。

これまでに、①2月28日 図書館管理ソフト講習会実施 ②5月14日 設立総会と各校の現況交流 ③7月27日 市立図書館司書を迎えての研修会 ④9月28日 学校図書館協会網走市支部研究会の実施（148名の参加）と事業を積み重ねてきました。

その中でも9月の研究会では、作文教育研究所の宮川俊彦先生をお迎えして、読書感想作文の公開授業と「表現教育と読書」のテーマで講演会を実施しました。参加された多くの方から好評をいただくとともに、主催した学校図書館協会網走市支部関係者一同、今後の活動の展開に有益なたくさんの示唆を得ることができました。

今後、市内小中学校だけでなく、他市町村の支部とも交流を深めながら学校図書館協会の輪を広げると共に、市立図書館や市教育委員会、各種ボランティア団体など関係団体とも連携を深めていきたいと考えています。

尚、本研究会に講師として訪問いただいた宮川俊彦先生のブログ（日刊ミヤガワ）の9月29日の欄に、今回訪問された感想などが書かれておりますので、どうぞご覧ください。

<http://blog.livedoor.jp/nikkanmiyagawa/>

（文責 網走市支部事務局長〈網走市立潮見小学校 主幹教諭〉小松 秀治）



第33回 全道高等学校図書研究大会

第33回全道高等学校図書研究大会（道高文連など主催）が10月6、7日の両日、苫小牧市民会館などで開催されました。

1日目は、12の分科会が行われ、全道から集まった458名の図書館の生徒達が交流を深めます。第2分科会「もし初めて出会った全道の図書館員が魅力ある館報を3時間で作ったら☆」では、参加した52名が4人のグループで意見交換をしながら、紙面のレイアウトを考え、記事を書き上げます。初対面で、最初は緊張していたものの、お互いに自分のお気に入り本を紹介しあう「アイス・ブレイク」ですぐに打ち解け、賑やかな雰囲気の中、どのグループも3時間で見事な図書館報を作ることが出来ました。会場運営を支えた、苫小牧南高の図書館生徒のスムーズな進行や気配りに感心させられました。第3分科会「蔵書印を作ろう！」では、自分自身の手で、世界に一つだけの印を真剣につくる姿が印象的でした。その他、第7分科会「点字基礎講座」、第10分科会「アイヌ民族について」、第12分科会「利用を伸ばす図書館運営」などそれぞれの分科会で、生徒達の積極的に活動する場面が見られました。夕方からは、生徒交流会が開かれ、各校の図書館報をもとに、自由に意見交換が出来る貴重な時間となりました。



2日目は、北海道出身の歌人・穂村弘氏を迎えての記念講演です。「短歌の読み方」と題して、短歌の世界と日常の世界の真っ向から対立する二つの世界観についてのお話でした。配布された資料に基づいて、高校生にもとてもわかりやすい事例を紹介し、言葉のもつ力や、面白さなど短歌の魅力を存分に語っていただきました。

最後に、「図書館報コンクール」の表彰式が行われ、札幌月寒高校と札幌南高校が最優秀賞に選ばれました。（入賞校は次の通り。▷優秀賞 北広島西、札幌清田、清水 ▷優良賞 帯広柏葉、札幌静修、札幌稲雲、奈井江商業 ▷奨励賞 網走桂陽、大麻、帯広北、帯広三条、北見北斗、江陵、札幌啓北商業、札幌白石、札幌白陵、登別青嶺）

本大会は、毎年1回、全道から図書館・図書委員の生徒達が集まり、情報交換や交流を深める貴重な研修の場です。大会で学んだことを生かして、全校生徒のために魅力ある図書館作りを進めるよう期待しています。

最後に、大会運営にあられた苫小牧南高校の皆様はじめ、苫小牧支部の皆様、大会にご協力いただきました関係各位に心から御礼申し上げます。 (文責 北海道北広島西高等学校教諭 畠師 広光)

第53回北海道図書館大会に参加して

藤女子中学高等学校 司書教諭 佐藤 淳

9月1日・2日に藤女子大学を会場として行われた今大会のテーマは、「発想する図書館－図書館新時代を切り開く－」でした。今後の図書館の発展の方向性を考え、これからの図書館のあり方や果たすべき役割について学ぶことができる密度の濃い大会でした。

基調講演では、「電子書籍時代になぜ図書館が必要なのか」という演題で、湯浅俊彦氏（立命館大学文学部准教授）のお話を伺いました。電子書籍が教育界の中で今後迎えられる道についてのお話で、その中の図書館の必要性を再確認することができました。

第4分科会では、「学校図書館と公共図書館の連携の在り方」について、札幌市と江別市の具体的な事例発表を聞きました。質疑応答の時間には、各地域の公共図書館がどのくらい学校図書館を支援しているかとの問いに、実際に行われている素晴らしい取り組みがいくつか出され、議論も大変盛り上がりしました。

第5分科会では、「一歩先行く、図書館活動」ということで、北海道図書館振興協議会調査研究チームのアンケートを元にした発表を聞きました全道各地で行われている公共図書館での活動を、立案から実施、さらに費用の面まで細かく具体的に知ることができ、とても参考になりました。

大会出席者は公共図書館や大学図書館の方が多く、様々な場面で学校図書館以外の貴重なお話を多く聞くことができました。また各図書館との情報交換の場も多くあり、今後の活動につながるような有意義な時間となりました。児童・生徒たちのため、社会のために、我々学校図書館関係者はこれから何をすべきか、そしてどのように他の図書館と協力していくべきかを、あらためて考えるきっかけになりました。今回学んだことを、これからの日々の取り組みの中で活かしていきたいと思えます。

第32回(2011年度)「絵と文による冬休み読書大賞」実施要領

- ・主 催 北海道学校図書館協会・北海道新聞社
- ・作品規定 対象図書は両部門とも、「冬休み推せん図書」(小学生～中学生指定) および「平成23年度 北海道青少年のための200冊の本」です。200冊の本の校種別や学年指定はありません。自由に本は選んでください。高校生は「200冊の本」からの応募になります。道内の小・中・高校生ならだれでも応募できます。
- ・応募要領

【絵と文部門】

- 絵(感想画)：用紙は四つ切りサイズ(54cm×38cm)の画用紙。タテ、ヨコ自由。
小学校1・2年は、八つ切り(38cm×27cm)での応募も可です。
水彩・クレヨン・版画など自由。はり絵、切り絵、コンピューター使用のものは対象外。
本を読んで印象に残ったこと、感動したことを表現しましょう。読んだ本の中に出てくる絵(さし絵)をまねたり、大人に手伝ってもらってははいけません。
- 文：400字詰原稿用紙に、小学生は1枚、中学・高校生は2枚以内に。
原稿用紙に学校名、氏名、題名不要。直接文を書き出すこと。
自筆のものとし、コピーやコンピューター使用は不可。誤字のないように気をつけましょう。絵の説明やあらすじを書くではありません。本を読んで感動したことを中心にまとめてください。

絵と文を総合的に見て審査します。絵も文もしっかりかいてください。
応募票は絵の裏にはり、絵は折らないで、原稿用紙は絵の下にはって送ってください。

【読書感想絵ハガキ部門】

- 用紙：郵便はがき同サイズ(14.7cm×10cm)の画用紙。タテ、ヨコ自由。
- 絵：水彩・クレヨン・版画・色えんぴつ・クーピーなど自由。
はり絵、切り絵、コンピューター使用のものは対象外。
読んだ本の中に出てくる絵(さし絵)をまねたり、大人に手伝ってもらってははいけません。
- 文：基本的に何を使用してもかまいません。文字がにじまずきちんと読めるもので書いてください。
自筆のものとし、コピーやコンピューター使用は不可。
文字数は、小学生：50～100字程度、中学生以上：100～200字程度。本のあらすじを書くではありません。本を読んで感動したことを、伝えたい相手に伝わるようにまとめてください。誰にあててかいたものなのかを応募票に書いてください。

絵と文を総合的に見て審査します。絵も文もしっかりかいてください。
応募票は作品の裏にはってください。そのまま郵送してもかまいませんが、送付のさい、ご注意ください。

- ・応募締切 平成24年1月27日(金) (必着)
- ・応募先 〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 道新文化事業社
「絵と文による冬休み読書大賞」係
☎(011) 210-5735 (月～金 9:30～17:30、土・日・祝日休み)

2011年度 北海道冬休み推せん図書

	書 名	著 者 名	出 版 社	定 価
小学校1・2年指定	赤いポストとはいしゃさん	薫くみこ 作/黒井健 絵	ポ プ ラ 社	1,365
	小さなりゅう	長井るり子 作/小倉正巳 絵	国 土 社	1,260
	ふしぎなのらネコ	くさのたき 作/つじむらあゆこ 絵	金 の 星 社	1,155
	もぐらバス	佐藤雅彦 原案/うちのますみ 文・絵	偕 成 社	1,050
	ゆうたとおつきみ	楠章子 著/宮尾和孝 絵	くもん出版	1,260
小学校3・4年指定	かばた ^{いはい} 医院のひみつ	中島和子 作/秋里信子 絵	金 の 星 社	1,260
	氷の海を追ってきたクロ	井上こみち 文/ミヤハラヨウコ 絵	学研マーケティング	1,260
	動物園 ^{どうぶつえん} ものがたり	山田由香 作/高野文子 絵	くもん出版	1,260
	ロンとククノチの木	小原麻由美 作/ラウラ・スタニョ 絵	PHP研究所	1,365
小学校5・6年指定	ちょっとした ^{きせき} 奇跡 -晴れた日は図書館へいこう②-	緑川聖司 作/宮嶋康子 絵	小 峰 書 店	1,575
	ツシマヤマネコって、知ってる? -絶滅から救え!!わたしたちにできること-	太田京子 著	岩 崎 書 店	1,365
	ぼくはできる -もしも人生がすっぱいレモンをくれたとしても-	パトリック・ヘンリー・ヒューズ パトリック・ジョン・ヒューズ ブライアント・スタンフォード 著 堤江実 訳	PHP研究所	1,575
	真夏のマウンド	マイク・ルピカ 作/伊達淳 訳	あかね書房	1,470
中学生指定	宇宙がきみを待っている	若田光一・岡田茂 著	汐 文 社	1,470
	草原の風 ^{うた} の詩	佐和みずえ 著	西 村 書 店	1,575

「平成23年度 北海道青少年のための200冊の本」：ホームページからご覧ください。

第44回北海道学校図書館研修講座へのご案内

主催 ●北海道学校図書館協会
後援 ●北海道教育委員会
 札幌市教育委員会
趣旨 ●学校図書館の運営及び情報・メディアを活用する学び方の指導、並びに読書指導に関する基本的事項について理解を深めるとともに、学校図書館の目指す方向と役割についての見識を深め、学校図書館の機能の向上を図ることを目的とする。

日時 ●平成24年1月10日(火)～12日(木)
会場 ●北海道立道民活動センター (かでの2・7)
 札幌市中央区北2条西7丁目 ☎(011)204-5100
 ●札幌市立山鼻中学校 ☎(011)531-9941
 札幌市中央区南23条西2丁目1-1
 ●藤女子大学図書館 ☎(011)736-5407
 札幌市北区北16条西2丁目1-2

参加資格 ●学校図書館及び読書指導・学び方の指導に関わっている方ならどなたでも参加できます。

定員 ●150名
参加費 ●4,000円(資料代を含む)
参加申込 ●参加ご希望の方は、研修講座参加申込書に必要事項を記入して、12月5日(月)～20日(火)の期間に直接FAXにてお申し込みください。

研修講座申込先
 〒004-0002 札幌市厚別区厚別東2条4丁目5-1
 札幌市立小野幌小学校 山田佳子
 TEL (011)898-0552 FAX(011)898-2749

A. 共通講座
 ～参加者皆さんが受ける講座です。教育・学校図書館を取り巻く現状と展望について学びましょう。

講演 「新学習指導要領と学校図書館」
 文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田中孝一

- B. 選択講座：ファーストコース**
1. 講義 「管理・運営」
札幌市立手稲宮丘小学校 校長 中橋理子
 2. 講義 「図書館活動」
札幌市立あいの里東中学校 教諭 浅村麻姫子
 3. 講義 「読書指導」
札幌市立小野幌小学校 司書教諭 山田佳子
 4. 講義 「情報・メディアを活用する学び方の指導」
札幌市立発寒中学校 司書教諭 佐藤敬子
- C. 選択講座：ステップアップコース**
1. 講義・実習 「ツボにはまる分類」
札幌聖心女子学院 司書 新田裕子
 2. 講義・実習 「ステップアップ・読書アニメーション」
札幌市立石山南小学校 司書教諭 佐藤広也
 3. 講義・実習 「朗読を楽しもう」
元HBCアナウンサー・朝日カルチャー講師 安藤千鶴子
 4. 講義・実習 「わくわく読み聞かせ」
札幌市立厚別西小学校 司書教諭 安藤理恵子
 5. 講義・実習 「学校図書館クリニック」
旭川市立愛宕中学校 司書教諭 加藤直子
 6. 講義・実習 「レファレンスの基本」
藤女子大学 教授 渡邊重夫

- D. 校種別選択講座**
1. 討議 「図書館資料の活用とその指導～小学校」
名寄市立名寄小学校 司書教諭 大井真梨
教諭 若林みずほ
 2. 討議 「図書館資料の活用とその指導～中学校」
小樽市立銭函中学校 教諭 高橋恒雄
 3. 討議 「図書館資料の活用とその指導～高等学校」
北広島西高等学校 司書教諭 畠師広光

- E. 選択講座・高校コース**
1. 講義「管理・運営」 石狩翔陽高等学校 司書 谷口初江
 2. 講義「交流」 札幌聖心女子学院 司書 新田裕子
- F. ナイター**
1. もっと！本の話をしよう
 2. 広報紙持ち寄り報告会
 3. 支援が必要な子どもたちと図書館

～研修日程～

1月10日(火) 〈かでの2・7〉

9:30	10:00	10:25	12:00	13:00	14:40	16:30	18:00	20:00
受付	開講式	A. 講演	昼食	B1. 管理・運営	B2. 図書館活動		F1. もっと本	
				C1. 分類			F2. 広報紙	
				C2. アニメーション			F3. 特別支援	
				G1. 研究部長会				

1月11日(水) 〈かでの2・7、札幌市立山鼻中学校、藤女子大学〉

9:30	12:00	13:00	13:30	14:40	16:30	18:00
C3. 朗読	昼食	B3. 読書指導	B4. 学び方の指導			懇親会
C4. 読み聞かせ		C5. 図書館クリニック(山鼻中)				
E1. 高校 管理・運営		C6. レファレンス(藤女子大学)				
G2. 研究部長会		E2. 高校 交流				

1月12日(木) 〈かでの2・7〉

9:30	11:30	11:30
D1. 討議〈小〉	閉講式	
D2. 討議〈中〉	閉講式	
D3. 討議〈高〉	閉講式	

- G. 指導者研修講座(全道研究部長会)**
1. 第39回北海道学校図書館研究大会(十勝大会)の反省
 2. 支部研究交流
各支部研究部長
道SLA研究部長 佐藤 敬子(札幌市立発寒中学校 司書教諭)
道SLA事務局長 野村 邦重(札幌市立しらかば台小学校 校長)

学校図書館情報



◆「信じよう、本の力」

2011年 第65回 読書週間

10月27日(水)～11月9日(火)

標語入賞者、小野島健太氏の言葉。「人々の希望を奪い去った大震災一。いま、復興した書店は多くの人で賑わっていると聞きます。失ったものはもう戻ってこないけれど、本には人を元気づけたり、人の悲しみに寄り添う力があると思います。こんな時代だからこそ、是非多くの人に本を読んでもらいたいです。」



◆第57回青少年読書感想文全道コンクール 第37回北海道指定図書読書感想文コンクール

多数の応募、ありがとうございました。

全道審査は、10月17～29日に行われます。

表彰式 12月4日(日) 10:00～12:00

札幌センチュリーロイヤルホテル

(札幌市中央区北5条西5丁目)

◆求められる学校図書館機能の強化

「教育の情報化ビジョン」発表

文部科学省は、4月28日「教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」を発表した。各学校において教育の情報化を推進していく上で、学校図書館の重要性はますます高まる。学習に十分な環境を整備し、機能を活用していくためにも、専任の司書教諭の配置が強く望まれる。

◆HP「子ども読書の情報館」リニューアル

文部科学省は、子どもの読書活動を応援する全国的な情報サイト「子ども読書の情報館」をリニューアルした。このサイトは、「本を探す」「応援ブログ」「全国の実践事例」「文部科学省発表データ」の4項目で構成されている。

<http://kodomo-dokusyo.medc.jp/>

事務局

〒062-0054 札幌市豊平区月寒東4条8丁目10-43

札幌市立しらかば台小学校内

事務局長 野村 邦重

TEL 011-852-4090

FAX 011-852-2379

E-mail:kunishige.nomura@city.sapporo.jp

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメンティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15

TEL (011) 857-3331

FAX (011) 857-5211

◆司書教諭の全校配置、専任化を提言

「国民の読書推進に関する協力者会議」報告書

文部科学省は、2010年7月より「協力者会議」を設置し、読書推進の取組の検討を行ってきた。9月2日、報告書が公表された。「人の、地域の、日本の未来を育てる読書環境の実現のために～3つの提言～」が示された。◇提言1 読書で人を育てる、「読書を支える人」を育てる。◇提言2 住民参加で自治体ごとの「読書環境プラン」(仮称)を策定し、実現する。◇提言3 読書の新しい可能性や将来像を構想し、推進するためのプラットフォーム(基盤となる「場」)をつくる。

その中で、すべての学校に司書教諭を配置し、司書教諭の専任化を推進することや学校図書館担当職員(学校司書)充実の必要性が明記された。

編集後記

朝夕の気温がめっきり低くなり、各地で冬の準備が始めるころになりました。早いもので2学期も半ばを過ぎて、皆様にはお忙しい毎日をお過ごしのことでしょう。本号は9月に開催された第39回北海道学校図書館大会十勝大会の記事を中心に、7月から10月にかけて全道各地で開催された研究大会についての報告なども掲載しています。

今年の読書週間の標語は、「信じよう、本の力」。未来への希望そのものである子どもたちが、読書を通じて様々な困難を乗り越え生き抜く力を身につけることができるように、日々努力を重ねていきたいものです。

(担当: 杉本 操 村山 知成 佐藤 秀則)
野村 邦重 飯島 道恵

ホームページアドレス

<http://www.hokkaido-sla.jp/>